

# 平成24年第2回定例会一般質問

## 1. 商店街振興策について

- (1) 複合型商業施設の参入による既存商店街への影響について
- (2) 商店街振興への新たな取り組みの必要性と行政の役割について
- (3) 都市計画と中心市街地の活性化策について

## 2. 新病院開院に向けての取り組み等について

- (1) 平成23年度の病院経営に対する評価と  
平成24年度の病院経営の見通しについて
- (2) 医師招へい対策への取り組みについて
- (3) 医療情報システムの導入作業について
- (4) 市民ボランティア組織立ち上げに向けた取り組み状況について

## 3. 保健・医療・介護の連携への取り組みについて

- (1) 保健・医療・介護の連携に関わる庁内連絡会議の取り組み状況について
- (2) 地域包括ケアシステム構築に向けての地域課題について
- (3) 専門家・有識者による検討の必要性について

2012/06/20

根室市議会議員

本田俊治

通告に基づき一般質問をさせていただきます。

はじめに、商店街振興策について伺いたします。

12月に根室初の複合商業施設のオープンが予定されております。国道44号線沿いの約3万8000平方メートルの敷地にホームセンター、食品スーパー、家電量販店など7店舗が集積する複合型の商業施設がやってくるわけです。市外資本の企業の参入ですのであえて「やってくる」という表現を使ったわけですが、これだけの複合商業施設のオープンは、既存商店街にとっては、非常に大きな脅威になるものと考えます。

そこで、複合型商業施設の参入による既存商店街への影響について、どのような分析をされているのか、市長のお考えを伺います。

商店街の振興策については、昨年第2回定例会でも伺っております。その中で、私は、長引く経済の低迷、人口の減少や高齢化の進展、消費者ニーズやライフスタイルの多様化、加えて、店主の高齢化や後継者・担い手不足といった要因により、「まちの顔」である商店街の空洞化に歯止めがかからない現状への対策の必要性を述べてきたところです。

ご答弁では、商工会議所や商店連合会等との連携強化を図り官民一体となって低迷する商店街の再興への取り組みが必要であり、商店街振興のためのプラン策定についても調査・研究いただけるということでしたが、状況が大きく変わろうとしている現状を考えると、様々な取り組みを加速的に行うことが必要ではないでしょうか。

そこで、現状を踏まえまして、商店街振興への新たな取り組みの必要性と行政の役割について伺います。

この質問の終わりは、都市計画と中心市街地の活性化についてであります。

都市計画マスタープランでは、様々な都市活動と市街地の特性を生かした「拠点」という考えかたを示され、産業振興の拠点の一つとして、駅前周辺から根室港いたるまでの商業地域とその周辺部を同地区から移転となるはずであった市立病院の跡地利用を含め、中心市街地の拠点としての役割を担えるようにと位置づけています。

しかしながら、市立病院は現地改修になりました。そして、新たに、郊外型の商業施設が駅前から根室港にいたるまでの商業地域とは離れた国道沿いに建設されます。

まちづくりのガイドラインとも言える都市計画マスタープランが大きく崩れているわけです。このことをどう受け止め、どのような対策を講ずるのか。早急に検討すべきと考えます。

商店街は市民の交流や娯楽の場であり、「まちの顔」として地域のコミュニティ形成に重要な役割を担っていると考えます。その商店街の空洞化、まちの顔の崩壊は、次世代を担う若者をはじめとする市民の市外流出へ拍車をかけることとなります。また、商店街の低迷、空洞化の飲食店、歓楽街、更には、宿泊施設等への連鎖を考えると観光事業にも大きな影響あるのではないでしょう。

この厳しい状況を打開することが、重要な地域課題であり、明確な将来ビジョン・方向性を示す作業が必要であり、行政が中心的な役割を担うべきと考えます。

そこで、都市計画マスタープランに掲げた「拠点」の考え方が崩れつつある中、またコンパクトなまちづくりが求められる中、根室市としてはどのような都市計画、都市デザインの下「まちの顔」である中心市街地を活性化させようとしているのが市長のお考えを伺います。

次に、新病院開院に向けての取り組み等について伺います。

11月22日の竣工に向け新病院建設が進んでおります。ホームページによる建設進捗状況の紹介、病室モデルルームの市民見学会や新病院の名称募集など市民PR活動も行われており、市民の期待も高まっているものと考えます。一方、準備を進める病院では、これから、開院に向け、かなりのハードワークになるものと想像します。東浦院長を中心に、多くの市民が待ち望む新病院オープンに向け勢力的に取り組んでいただきたいと思っております。

まちを挙げて取り組むべき一大事業でありますことから、期待も非常に大きいのですが、その一方で、期待と同じくらいかそれ以上に心配ごとが尽きないのが現状であります。

市立根室病院建設等に関する特別委員会解散時に一番危惧していた、医師体制とそのことにより影響を受ける病院事業会計の収支見通しもその一つです。

先日いただいた資料では、平成23年度の医師体制は12名（年度当初は14名でしたが）、結果として一日平均の入院患者数が91.6人、外来患者数は497.8人と病院改革プランとは大きくかけ離れた結果となっております。

平成24年4月の医師体制は常勤医師12名（産婦人科医師が休職中のため実質11名）と現状では、昨年より1名減。内科は1名増員になりましたが、整形外科が1名、産婦人科が1名減ですので、今後の、体制の如何によりますが、このままの状況が続けば、更に、経営

状況は悪化するのではないでしょうか。

そこで、はじめに平成23年度の病院経営に対する評価と平成24年度の病院経営の見通しについて市長のお考えを伺います。

次に、医師招へい対策への取り組みについてであります。本年4月からの新たな取り組みとして、市退職者を医療政策参事として配置されましたが、どの様な効果を期待するものか、また、どの様な立場、役割を担うことになるか伺います。

また、本年度の医師招へい対策として初めて、民間医師派遣仲介業者の仲介による医師招へいが実現しましたが、この実績をどの様に評価されているのか、併せて、今後の医師招へい対策全般の方針について、市長のお考えをお伺いいたします。

3点目は、医療情報システムの導入作業についてであります。

これまでも再三、システム導入に対する考えかをお聞きしておりますが、開院までの準備期間としては、半年程しか時間はありません。

何人かではあります。院内関係者から作業の進捗状況をお聞きする機会がありましたが、全院的な取り組み、準備作業が行われているような話はありませんでした。非常に心配です。

これまでのご答弁では電子カルテルシステムの導入も含め検討されるということですが、開院までの期間を考えると、電子カルテシステムの導入は現実的なプランではないと考えます。

そこで、現時点でどのような作業進捗状況となっているのか、また、どの様なシステム導入となるのか、お伺いいたします。

この質問のおわりは、市民ボランティア組織立ち上げに向けた取り組み状況についてであります。

昨年の第二回定例会でボランティア組織の立ち上げを提案させていただきました。市民や各種サークルなどの協力が不可欠であり、まずは院内に検討委員会を設け、新病院開院に先駆け実施する様、検討したいというご答弁でした。

現時点で、ボランティア組織が対上する様な動きはありませんが、これまで、どの様な取り組みをされて、また、何時の時点でどの様な市民協力の場・ボランティア組織を立ち上げようとされているのか、お伺いいたします。

質問の3点目として、保健・医療・介護の連携への取り組みについて伺います。

平成22年第1回定例会において「高齢化を見据えた医療・保健・福祉・介護の連携と地域包括ケアシステムの取り組み」について質問させていただきました。

ご答弁の中で、保健・医療・介護の連携に関わる庁内連絡会議の役割は、在宅での治療困難者等にたいして、安心して療養生活を送ることができるよう医療と介護の分野でスムーズに連携できる体制の構築や介護施設と病院のきめ細かな連携体制の確立などを検討・協議する場であるとお聞きしました。

この組織による検討の結果、根室市が抱えている医療療養病床の問題については、特別養護老人ホームや介護老人保健施設の増床で対応という結論をだされ、第5期根室市高齢者保健福祉計画・根室市介護保険事業計画に68床の増床が盛り込まれました。

残念ながら、この68床の増床に多額の市費が投じられることや介護保険料の増額に繋がるとの判断は、当時、私にはできませんでした。自分自身のチェック能力の甘さを反省しております。

市費投入に関しましては、当初予算の審査の中でも議論させていただいておりますので、予算に関する議論をしたいとは考えておりませんが、事業の取捨選択段階で掘り下げた議論を尽くすことの必要性を感じた事例であり、現時点においても病院問題同様に様々心配事の尽きない問題と考えておりますので、疑問点等について幾つか述べさせていただいた上で、何点か市長のお考えをお聞きしたいと思っております。

医療の実態、特に高齢者医療の実態を見ますと、急性期疾患による入院加療中に慢性疾患の悪化、食欲低下による脱水・低栄養を合併し長期療養が必要となるケースが多く、急性期治療中・治療後の慢性疾患の悪化への対応を考えていかなければなりません。現況、この状態・レベルの高齢者をカバーする仕組みが不透明です。

高齢者の急性期疾患軽快後の市立病院からの出口もよく見えませんし、実態はどうなっているのでしょうか？

また、脳疾患や心疾患の患者さんの場合は、現状、急性期治療は第3次医療圏の釧路市内の医療機関で行われます。その後、亜急性期、回復期の治療が必要となるわけですが、根室市へ戻ってくることは可能なのでしょうか？

どの様な回復期の治療プロセスがあるのか、その事態もまた不明瞭です。

これまでも何度か指摘しておりますが、根室市の場合、現状では、医学医療・介護医療の境界部分が非常にファジーであり、グレーゾーンがあるのも事実です。このグレーゾーンの患者さんはどの様なサービスを受けられるのか？そのサービスは最善のものなのか？

等々、様々な疑問点がありますが、これらのとは、恐らく、実際にその場面に遭遇しなければ分からないのかもしれませんが、この環境にない方々には、疑問も危機感もないのかもしれませんが。

現実には、自分自身が、また、ご家族がこの場面に遭遇したときに、根室市は、医療から介護まで切れ間のないサービスで支えられ、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活を送ることができるような環境にないことを、(初めて、)感じるのではないのでしょうか？

実際に、このグレーゾーンの中で、ご苦労されている方も沢山いらっしゃるはずですし、私自身もその経験があります。こういった皆さんは、現状を受け入れた中で、様々なご努力をされ、また、我慢をされながら、対処されているのではないのでしょうか？

一番の問題は、その事がご本人、ご家族にとって最善の治療プロセスなのか、どうかということだと思います。(判らないこと)

新しい介護保険事業計画がまとめられましたが、この計画は介護の枠組みの中でのあり方をまとめたものです。新病院の基本計画・基本構想は市立病院における診療のあり方をまとめたものです。グレーゾーンはそのままです。

現時点で、高齢者の生活を切れ目のないサービスで支え、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活を送れることを支援する仕組みが確立されているとは思えませんし、また、グレーゾーンをクリアーにするビジョンもないものと考えます。

私は、早急に、専門家・有識者の参加をいただき、保健・医療・介護を包括する仕組みづくり(システムづくり)に取り組み、市民に見える・伝わるジビョンの策定を行う必要があると考えます。

以上の事を踏まえまして、(1)保健・医療・介護の連携に関わる庁内連絡会議の取り組み状況について、(2)地域包括ケアシステム構築に向けての地域課題について、(3)専門家・有識者による検討の必要性についての3つの視点から、保健・医療・介護の連携への取り組みについて、市長のお考えを伺い、壇上からの質問といたします